

令和7年度 OPEN CAMPUS 模擬授業 一覧

【文学部 日本語日本文学科】

総合型選抜入試を考えてない方も、もちろん大歓迎！
ぜひ学科の学びを体験してください！

学部・学科	開催日程	担当教員	授 業 内 容
文学部 日本語日本文学科	5/25(日)	木村迪子 准教授	AIアプリと一緒にくずし字を読んでみよう 「くずし字」は、明治時代ごろまでの日本人が使っていたくずし書きにした文字のことを言います。現代人の大半が読めなくなってしまったくずし字ですが、今、くずし字を多くの人が読めるよう、様々な技術が開発されています。授業では、くずし字を取り巻く現状からはじめて、実際にくずし字アプリを使い、くずし字を読む簡単な方法を学びます。
	6/22(日)	宇都宮啓吾 教授	片仮名から古写本の鑑定をしよう 平安時代前期（9世紀前半）に生まれた片仮名は、今の形とは大きく違っていました。それが平安・鎌倉時代を通じて、14世紀頃に今の私たちと同じ形の片仮名になります。例えば、「ン」も13世紀前半以前は一筆書で「✓」と書かれていました。ということは、古写本の「ン」が「✓」の形で書かれていれば13世紀前半以前の写本と判断できます。こんな風に片仮名の形の移り変わりを手懸かりに、古写本の鑑定をしてみましょう。
	7/19(土)	東典幸 教授	高校の現国、大学の文学、違いを体験してみて！ 皆さんは小学校から高校まで、「要旨をまとめる」「主題を考える」「作者の意図を読みとる」、国語科ではそんな読解力を磨いてきたことと思います。多くの新入生も「読むとはそういうことだ」と思っていますが、大学に入って、新しい読みのテクニックを身につけていきます。そんな例のいくつかを皆さんにも試してもらいます。たとえばそのひとつは「書いてあるとおりに読む」という一見とても当たり前のことですが、きっと新鮮な体験になるはずです。
	7/20(日)	稲垣裕史 准教授	甲骨文字を読もう およそ3200年前の漢字、甲骨文字（甲骨文）を解読するワークショップです。大昔の中国（殷）で使われていた文字は、いま日本で使われている漢字とよく似たものもあれば、まったく異なるものもあります。それらの文字は、どのような形で、どのように生まれたのでしょうか。漢字の作られ方について学び、実際に読んでみましょう。
	8/8(金)	木下みゆき 特任教授	司書の仕事：みなさんの「知りたい」を応援します！ あなたは図書館で司書に質問をしたことがありますか？司書は、情報の専門家です。図書館にある本や雑誌・新聞から、データベースやインターネットで入手できる情報まで、様々な情報源の中から、利用者ひとりひとりのニーズにあった情報を探し出し、結びつけるノウハウを持っています。模擬授業では、このレファレンスサービスの極意と司書の仕事の魅力を紹介します。
	8/9(土)	井上新子 准教授	かぐや姫は最後に何を思ったか？ 『竹取物語』のクライマックス、かぐや姫は故郷「月の都」へと帰還します。地上を離れる直前のかぐや姫のふるまいと心とをかたどる物語の言葉や「天の羽衣」というアイテムに着目し、共通する伝承世界を突き抜けて『竹取物語』が発信する世界観について考えます。『源氏物語』において「物語の出で来はじめの親」と評され、作り物語の祖と考えられる『竹取物語』の魅力を探ります。